

ヘルメットは絶対!

オーストラリアでは、自転車に乗るときはヘルメットの着用義務があります。自転車は車輦と同じ交通ルールを守り、基本的に車道を走らなければならないなど、日本と異なるルールもあるので、確認をして安全に自転車に乗りましょう。

BBQ

日本でバーベキューをするとなると、まずバーベキューが許可されている場所を探し、網や燃料などを自分たちで用意するのが一般的です。しかしオーストラリアでは、公園などに予め備え付けのバーベキュー設備があり、ボタン1つ押すだけで楽しめます(場所によっては無料)。掃除や後片付けはマナーなので、忘れずにやりましょう。

高速道路の制限速度

日豪両方とも高速道路での制限速度は設けられています。日本では特に標識などが無い場合、普通自動車であれば最高速度が100km/h、最低速度が50km/hで50km/hほどの速度差があります。しかし西オーストラリア州では他車輦の走行の妨げになるので、最高速度より20km/h以下で走行していると違反となります。

他国語放送

日本では英語など他国語で放送されている番組は吹き替え字幕がありますが、オーストラリアでは国営放送局で、英語ではない他国語ニュースを字幕なしで放送しています。移民社会のオーストラリアらしいサービスですね。

左ハンドルは右ハンドルに

西オーストラリア州では、基本的には左ハンドルの自動車を輸入した場合、それらを右ハンドルに取り付け直すことで走行が認められています。しかし、ゴミ収集車には収集用クレーンを使う時に左後方の確認を容易にする理由で、左ハンドル車が使われているものもあります。

B・Y・O

日本ではあまり浸透していないB・Y・O (Bring Your Own) は、オーストラリアでは一般的。レストランなどでこの表示がある場合は、利用者は自分でアルコール類を持ち込むことが可能となっています。お店によってはワインのみのところや、持ち込み料 (Corkage) が発生するところもあります。

標識

国によってそれぞれ交通ルールがあり、さまざまな標識が見られます。ここオーストラリアは日本の交通ルールとよく似ていますが、『カンガルーに注意』や『コアラに注意』、といった標識はオーストラリアならではですね。

ミルクたっぷりアイスコーヒー

一般的に日本でアイスコーヒーを注文すると、無糖ブラックコーヒーにミルクやシロップなどが別に付いてきますよね。ところがオーストラリアでは最初からミルクたっぷり、またオーダーすればアイスクリームやホイップクリームがのった、なんだかゴージャスなコーヒーがでできます。

市内通話

日本では通話時間に比例して電話代がかかりますが、オーストラリアでは一般的に市内通話であれば、一定料金で時間無制限。おしゃべりに花が咲きそうです。料金は通信会社によって異なりますが、主な加入電話からは25c、主な公衆電話からは50cとなっています。

手作りビール

日本では免許がないとアルコール1%以上の酒造が認められていませんが(自家製の梅酒などはアルコール度数が造る段階で上がらないので例外)、オーストラリアではビール造りキットなるものがリカーショップなどで売られています。まさに、地ビールならぬ、『自』ビール。

電車、バス、船、3種類も!

パース都市圏の公共交通機関を運営するトランスパース (Transperth) では、購入したチケットのゾーン内で、1~4ゾーンは2時間以内、5~8ゾーンは3時間以内であれば、1枚のチケットで電車、バス、船の3種類の乗り物を自由に組み合わせ、乗り降りすることができます。

学校の学年

オーストラリアでは小学1年生のことを "Year 1" と数え、Year 1~6 または 7 の "Primary School" が日本の小学校に、一般的に Year 7 または 8~10 の "Junior Secondary School" と Year 11, 12 の "Senior Secondary School" が中学・高校にあたります。Junior Secondary School までが義務教育になります。

タクシー手動ドア

日本のタクシーのドアは運転手さんの操作により自動で開閉しますが、オーストラリアのタクシーのドアは手動です。降りる時には自分で安全確認してドア開け、閉め忘れてそのまま立ち去らないように気をつけましょう。

Express レジ

日本でもオーストラリアでも、夕方にはスーパーなどのレジが込み合うのは同様ですが、他のレジより進みがはやく便利な『Express レジ』というものがオーストラリアにはあります。これは、8品や12品以下のものを買う人のみを対象とした専用のレジのことです。

知って得するパースの限定モノ大紹介!